

令和6年度「清流の国ぎふ」づくり
自然共生工法写真コンテスト

応募作品
No. 1
～
No.17

審査委員コメント入り

主催 岐阜県自然共生工法研究会
岐阜県





「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	ショッピングモール前の糸貫川
撮影場所	本巣市三橋1丁目(糸貫川)
撮影日	令和6年5月3日
応募者コメント	ショッピングモール(モレラ)の駐車場の東側の糸貫川です。直線部で間知ブロック護岸ですが、いい感じに洲がついています。きれいに草刈されており、広い階段や飛び石が設置してあるので自然と川に降りたくなりました。階段を降りたところを石張りにしていたり、落差も段差ではなく石で傾斜をつけていたり、色々工夫されているようでした。

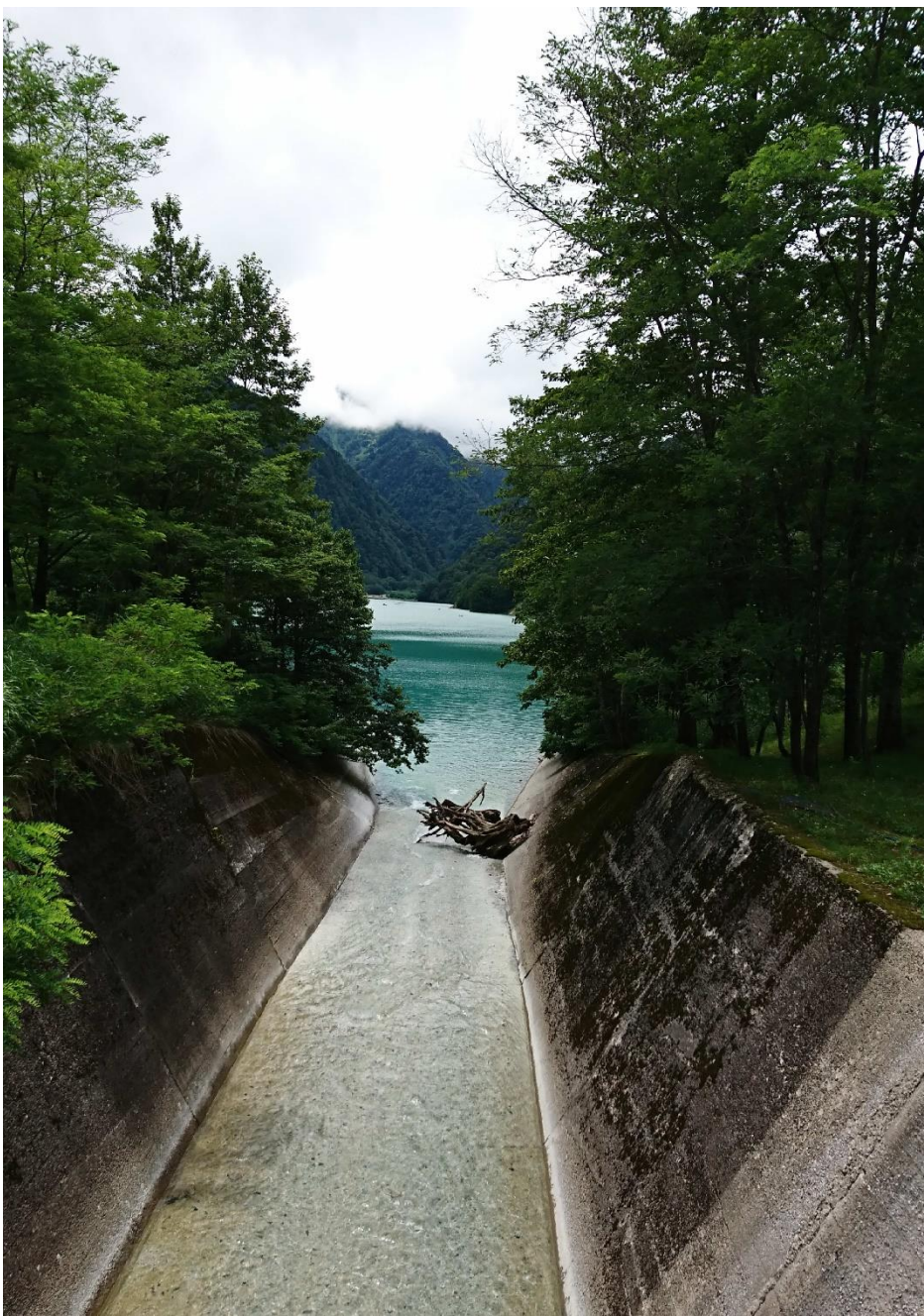
<審査委員とりまとめコメント>バランスよく置かれた飛び石と緩やかな流れ川の姿は、丁寧な維持管理もされていて身近に感じる事ができ、水際や水域が単調にならないような工夫など、多自然型川づくり期に整備された水辺の面影を止めています。親水河川の姿で、低水路(常水路)の両岸は詰め杭で護られ、ところどころ寄せ石が施工されています。糸貫川の上流は、山口頭首工から分水される席田用水に接続されているため、極度の洪水外力を受けることがほとんどなく、水際や水域が単調にならないような工夫など、整備当初の形を今に伝えていると思われます。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	緑化擁壁
撮影場所	揖斐郡池田町宮地字男山(池田山)
撮影日	令和6年5月29日
応募者コメント	作業道設置工事 補強土壁前面に植生シートを設置して緑化を図りました。

<審査委員とりまとめコメント>山林管理の作業道設置において、道路基盤維持のために補強土工事が必要となった箇所に施工された法面緑化工で壁一面が緑で覆われるという見事な成果を収めていて、無機質の補強土壁面を剥き出しにしないための工夫として、他への参考になると思われます。ただ、外来種に頼らざるを得ないのが植生シートの現状のようで、在来種を考慮した環境配慮面からは今後画面下部のシダ類等が生育して置き換わることを期待されます。写真のコントラストが強く、また、撮影者コメントも簡潔過ぎて意図の伝わりにくかったことが残念です。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	白水湖の護岸施設
撮影場所	大野郡白川村平瀬(白水湖)
撮影日	令和5年8月13日
応募者コメント	白山国立公園内に存在する白水湖(写真の奥)に構築された三面張り護岸である。河床部は、護岸の洗掘防止かつ景観に配慮したコンクリート構造となっており、エメラルドグリーンの白水湖と護岸背面の木々と調和している。

<審査委員とりまとめコメント>人工物の三面張りの渓流を下部に配し、付着した地衣類がコンクリート面の堅さを和らげている両岸と湖水対岸の濃緑の木々の間に青碧の湖面を覗かせた、シンプルで、水、湖、山、木々のバランスが良い美しい写真で、流路から湖へ引きこまれるような情景を切り出しています。施工場所の立地条件に沿って工夫された構造物ですが、高湖水位時に溜まったとみられる粗朶を除き、水生生物にとっては取り付く島もないような路床でもあり、白水湖の環境に馴染んでいるとは言い難いのが残念です。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	自然と調和した美しい流路工
撮影場所	揖斐郡揖斐川町坂内広瀬地内（大倉谷）
撮影日	令和5年8月31日
応募者コメント	木曾川水系大倉谷にある練石積で立ち上げられた砂防施設です。大雨直後の状況ではありますが、土砂流出を抑制し、渓谷の景観によく馴染み、砂防施設としての機能を果たしています。緑と綺麗な水の流れに調和した美しい流路工です。

<審査委員とりまとめコメント>多段に配置された練積みの自然石による床固工群は、流木を巻き込んだ土砂を堆積させており、出水時の渓床洗掘と渓岸侵食を防止して山脚・山腹に安定をもたらすとともに、下流への土砂流出を抑制しています。土砂災害の防止ばかりではなく、広葉樹林の保全に寄与していることも明らかで、写真は、砂防施設の機能と周辺との調和をわかりやすく捉えています。床固を越流する水と緑の色合いはよく調和しており、木の枝ぶりを手前に入れた写真の構図も効果的です。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	魚たちが住みやすいように
撮影場所	郡上市白鳥町六ノ里(牛道川)
撮影日	令和6年3月12日
応募者コメント	災害復旧工事の現場です。川幅も狭く流れも速いので、魚たちが休憩できる池を何か所か設けました。ここで産卵もできるかな。

<審査委員とりまとめコメント>護岸工と根固工とが新たになった箇所から上流に向かう区間において、河床に自然石を敷き並べて凹凸をつくり、プール機能や流速差を生じさせて、魚類など水性生物の生息に良好な環境を形成した区間の写真で、透き通った川の流れの中で魚が安心して感じるように感じられます。弯曲部外岸に当たる対岸は山脚であって、食防止は山腹安定には欠かせません。石の並びはやや人工的ですが、災害復旧工事でここまで自然共生できることは素晴らしく、今後の河床状態や生物生息状況の変化に注目したいです。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	自然が彩る美しい景観
撮影場所	郡上市八幡町橋本町(吉田川・宮ヶ瀬橋)
撮影日	令和6年6月2日
応募者コメント	人工物の石積みの壁面に自然と緑化されていて、美しい景観と共に涼しさが感じられる。 遊歩道を散歩することにより、ストレス解消やリラックス効果など、自然の美しさや豊かさを感じながら、心地よい散歩を楽しめました。

<審査委員とりまとめコメント> 吉田川の八幡市街地内の区間では、両岸に地域ならではの暮らしや歴史、文化との調和に配慮した飲食店や旅館などの町家が立ち並び、河川と共生する地域の文化的な雰囲気は保たれています。その左岸の一面を切り取った写真には、一面が緑に覆われた護岸の天端と法面の中ほどに小径があり、町家にはテラスもあって、川面を眺めながら散策や食事をする憩いの場の情景が捉えられています。河川を観光資源とした美しい街の景観が上手に撮影されているのみのようで、一見自然共生工法とは無関係に思えますが、緑豊富に維持された護岸は参考になります。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	岐阜のグランドキャニオン
撮影場所	加茂郡川辺町下麻生(飛騨川)
撮影日	令和5年4月29日
応募者コメント	川辺町の遠見山からの眺望です。地形の特徴から「岐阜のグランドキャニオン」と言われています。飛騨川の従来の河道が保全されています。また、河畔林によって、護岸が露出せず、良好な景観であることに加え、生物の生息環境が保全されています。

<審査委員とりまとめコメント>山間を穿入蛇行して流れ下り、ところどころに河岸段丘を発達させている飛騨川の最下流区間、川辺ダムの貯水区間末端付近の写真で、川と町とが一望できる、独特の島のような壮大な景観がうまく切り取られていて、大きく蛇行する河道と河畔林の独特な景観が表現されています。美しい自然と雄大な飛騨川に癒されるとともに、水と向き合う中山間地集落の風景に先人の生活様式が読み取れそうで、まちと河川の調和が感じられますが、一方で護岸が必要とされる箇所は限られているなど、自然共生工法としての取り組み内容がわかりにくく、判断に困る作品でもあります。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	かぐや姫の散歩道
撮影場所	可児市土田(木曾川)
撮影日	令和5年4月29日
応募者コメント	荒廃していた竹藪が、地元の方々によって適切に管理され、日差しが届く明るい空間が木曾川沿いに創出されています。 川沿いの竹林は、河川増水時には川の流れを緩めることから、グリーンインフラとしての機能もあります。

<審査委員とりまとめコメント>かつて救荒や水害防備等に有用な働きをしていた竹林は、その後適切な管理がなされなくなり、その荒廃は、川沿いに限らず、以前から問題視されてきましたが、写真の水辺の道は、地元の方々の絶え間ない整備で竹林が美しく管理され、真っすぐ伸びた竹林と並行して流れる川とのバランスが素晴らしく、歴史を感じさせる景色の実際に散歩したくなる心地よい空間となり、河川管理にも役立っています。この適切な継続的管理による竹林と水際の遊歩道の姿は、密度管理が河川高水敷の景観創出の一助になる可能性を表しており、今後左手の鬱蒼とした竹藪の中に木漏れ日の差してくることも期待されます。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	高山の日常風景
撮影場所	高山市本町(宮川)
撮影日	令和6年6月24日
応募者コメント	岐阜県高山市にある、赤い橋で有名な宮川です。すぐ隣では宮川朝市が開かれており、毎日たくさんの地域住民や観光客がこの場所を楽しんでいます。川幅は広く、増水時には水量も増すため、堤防や置き石などで安全を確保しつつ、この景観を守っています。床止めによる水しぶきが涼しげで大変美しいです。

<審査委員とりまとめコメント>世界的な観光都市の趣を持つ高山市街地内を貫流する宮川や流入支川では、限られた空間を最大限に活かして、治水と環境・親水の機能を満足させるよう、工夫が重ねられてきています。写真の区間では、両岸が積みブロック護岸と自然石を多用した低水護岸で保護されていて、固い感じの様相ですが、水際には植生で覆われた凹凸があり、同じく自然石を用いた落差工を過ぎる流れは多様で、水生動物の生息への配慮も窺えます。また、宮川朝市が開かれている右岸上には賑わいが感じられ、低水護岸上では観光客が寛いでいますけれども、人影は少なく、人混みの朝市の賑わいや河川沿いの建物の風情などの宮川の良さの表現は少々弱かったといえ残念です。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	大雨でも色彩豊かな荒城川
撮影場所	飛騨市古川町三之町(荒城川)
撮影日	令和6年6月23日
応募者コメント	飛騨を流れる大河、宮川との合流地点のすぐ近くを撮影しました。広範囲にわたる寄せ石と植生の整備により、豊かな自然環境が整っています。春には荒城川沿いの桜が咲き誇り、多くの人の目を楽しませる河川です。

<審査委員とりまとめコメント>荒城川は、上流に丹生川ダムを有した、山あいの谷定平地の農地を潤しながら流れ下って宮川に合流する、地域にとってなくてはならない自然豊かな河川で古川の町家の人びとからも慕われています。写真のように、最下流区間は古くからの街中を流れるためブロック積みの立ち護岸となっていますが、天端の植生や植生で覆われた寄せ石による水際の入り組みなどによって流路の蛇行が創出されており、生物生息や景観への配慮や工夫の成果をみることができ、曇りあるいは雨天の川も悪くないと思わせています。好天の平水時だと水際に多様性が見られるより見栄えのする写真になったと想像されます。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	美濃国の原風景
撮影場所	本巣市根尾能郷(西谷川)
撮影日	令和6年7月7日
応募者コメント	気持ちの良い晴れた日に、涼を求めて。 景観に配慮された自然石模様の魚道。 近くでは溪流釣りや川遊びもみられ、大切にしたい原風景。

<審査委員とりまとめコメント>根尾西谷川の能郷谷との合流点の直上流に造られた落差工とそれに付帯の魚道の写真で、設置箇所は、西谷川が狭い峡谷部に入っていく前の相対的に広い河道区間にあります。原風景だといわれると、人工物が主体であり、魚道下流の垂直的段差も気になって魚道機能に課題がありそうだけに多少違和感を覚えますが、晴天下の山の緑と空の青さ、赤い橋がアクセントを背後にした、落差工を流れ落ちる白濁流と下流のゴツゴツとした岩に取り囲まれた碧の水面という構図は、構造物が背景に良く映えていて、人工物が自然の中にそっと置かれたような溪流の美しい景観を表現しており、勢いよく流れ落ちる冷たい水しぶきに思わず足を入れたくなります。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	岐阜の夏休み
撮影場所	美濃市須原(長良川・洲原神社前)
撮影日	令和6年7月7日
応募者コメント	岐阜の夏休みといえば川遊びやバーベキュー。長良川がもたらす豊かな自然の中、子供たちの遊ぶ姿が『岐阜の夏休み』を象徴している場面を写真にしました。

<審査委員とりまとめコメント> 緑に覆われた巨岩の形と水の色が調和し、自然石を用いた緩傾斜低水護岸もこの区間の河道にマッチし、子供たち2人の後ろ姿もかわいらしくてほほえましく、子供たちが水辺で涼んで夏を全身で感じている姿から楽しさが伝わってきます。また、地域住民と密接に関わってきた古くからの神社の境内でもある河川敷景観が感じられるような画角での撮影であれば、かなり特異な地形ですが、長良川らしさや豊かな自然も表現できたかもしれません。なお、運動靴を履いた水着姿ではない子供たちが水遊びをすることは思えませんが、洪水時には水衝部ともなる水域には陸からは確認できない深みもあって、目を離した隙に深みに滑り落ちる危険は無視できません。やはり水際は子どもには危なく、身体に合ったライフジャケットの着用は不可欠です。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	凍ててなお
撮影場所	高山市丹生川町久手(一之谷)
撮影日	令和5年12月9日
応募者コメント	標高1,800m、冬を迎えた谷合では落下する水さえ凍てつく。休眠しているかのような砂防堰堤は、極寒の中でも春の雪解けや夏の出水に向け、黙々と構えを崩さない。撮影時12月の谷合は、この後さらに大量の雪を擁したことだろう。

<審査委員とりまとめコメント>人里離れた極寒の地の厳しい自然の中に位置して、毎年繰り返し襲ってくる冬の厳しさに耐え、土砂生産を抑止しながら山脚を固定して山腹斜面を安定させる機能を発揮し続け、植生の生育基盤を保全して森林生態系の保全にも寄与している砂防施設の冬の佇まいを見事に捉えた写真で、雪、枯れ木、凍った水、構造物のバランスが良く、まるで水が流れ続けているような迫力ある躍動感にも溢れています。厳冬期の砂防堰堤を捉えた構図のとてもよい、効果、内容がともにわかりやすい写真です。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	硬く柔らかく
撮影場所	高山市丹生川町久手(一之谷)
撮影日	令和5年7月25日
応募者コメント	平成9年度復旧治山事業による谷止工。水通しの鋼管スリット5基が、上流からの土砂を受け止めつつゆっくり下流へ送って土砂流出を平準化し、水流も絶やさない。硬い躯体で柔らかく自然に対応している。

<審査委員とりまとめコメント>鋼管間のスリットによって土石流など出水時に増大する移動土砂は確実に捕捉して過度の土砂流出を抑制しつつも、常に下流へは土砂を供給して土砂バランスを保ち、溪床低下を防止して山腹を安定させる谷止工として機能する砂防施設の近景写真です。写真には、前の出水時に捕捉された土砂が徐々に洗い流されていて土砂移動の連続性が確保されている様子も捉えられていますが、もう少し遠景から撮影した広範囲の写真であれば、緑に囲まれた赤い鋼管によるスリット群配置が、縁の下の力持ちのようにどっしりかつ効果的に岩礫を抑え頼もしく谷を守っている姿が確認できて、効果や自然との調和がわかりやすかったと思われます。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	曾代用水と桜
撮影場所	美濃市曾代(曾代用水)
撮影日	令和6年4月11日
応募者コメント	曾代用水は350年の歴史のある農業用水路で、平成27年に世界かんがい施設遺産に登録されました。この写真は昭和の初めまで取水口があった曾代公園(みちくさ館)で撮影しました。

<審査委員とりまとめコメント>水路右岸側の満開の桜並木の植わった斜面は長良川の堤防兼用の国道156号の裏法となっているが、それと左岸側の町家が立ち並ぶ旧越前美濃街道との間を、歴史的・技術的価値を有するかんがい施設の曾代用水が手前から向こうに流れ、大切にしたい歴史ある用水路の桜並木と地域の街並みとが調和した景観の写真です。残念な写真左上のビル色彩や直線的な三面張り水路の固い趣きもあるが、全体として落ち着いた雰囲気醸し出されていて、ひとと水の係わりの長い歴史を感じさせてくれます。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	憩いの親水ため池
撮影場所	下呂市萩原町野上(杉ノ下ため池)
撮影日	令和6年7月4日
応募者コメント	農業用ため池に親水機能をもたせ、地域住民の憩いの場となっており、堤体護岸の水際に杭柵を設置し、小型の魚類の隠れ家となるよう配慮している。

<審査委員とりまとめコメント>無風の水面に木々や白雲が映り込み、背後の山や長閑かな農村風景と相俟って、明るい緑を基調としながらも全体として色彩に富んだ写真は、人工感を漂わせてはいるものの、水辺が緑で覆われた石積みに囲まれた農村環境の景観と調和した地域住民が散策などを楽しむ憩いの水辺の美しい情景を表現しています。地域住民の利用と生物の生息環境に配慮した環境づくりが素晴らしい創意工夫された親水空間の好例といえますが、湧水が僅かであれば、夏の暑さ対策としてももう少し樹陰が欲しいところです。小型の魚類に加えて、かつては里山水域の王者であったにも拘わらず、現在は絶滅が危惧されていますゲンゴロウやタガメなどの水生昆虫の帰ってくることも望まれます。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	木曾川の流れとじゃかご
撮影場所	可児市土田(木曾川)
撮影日	令和6年7月5日
応募者コメント	可茂総合庁舎から眺められる木曾川左岸には、コンクリート張護岸と併用し、伝統的工法の1つ「じゃかご」が設置されています。整備された竹林とともに景観を保ちつつ、激しい洪水においてもその機能は保たれています。

<審査委員とりまとめコメント>現場打ちコンクリートによる低水護岸に大径の丸石を詰めたじゃかごと川辺の竹林の整備は、水害から生活を守ると同時に、人工的になりがちな護岸に木曾川の雄大な景観との調和をもたらし、竹林とその緑陰、ゆったりとした川面に広い空の構図は、写真として成功しています。ただ、じゃかごの針金は劣化が早く見映えが悪くなりやすいこともあり、それらの上にはもっと植生があることが望ましく、また、鉄線じゃかごとその上部に生育する竹林の組合せは、自然石を使用しているじゃかごの変容とともに、竹林が地下茎をじゃかご下に侵出させて拡大するかの工事レベルの実験として、竹林管理の観点からも興味深く、ともに経過が注目されます。